

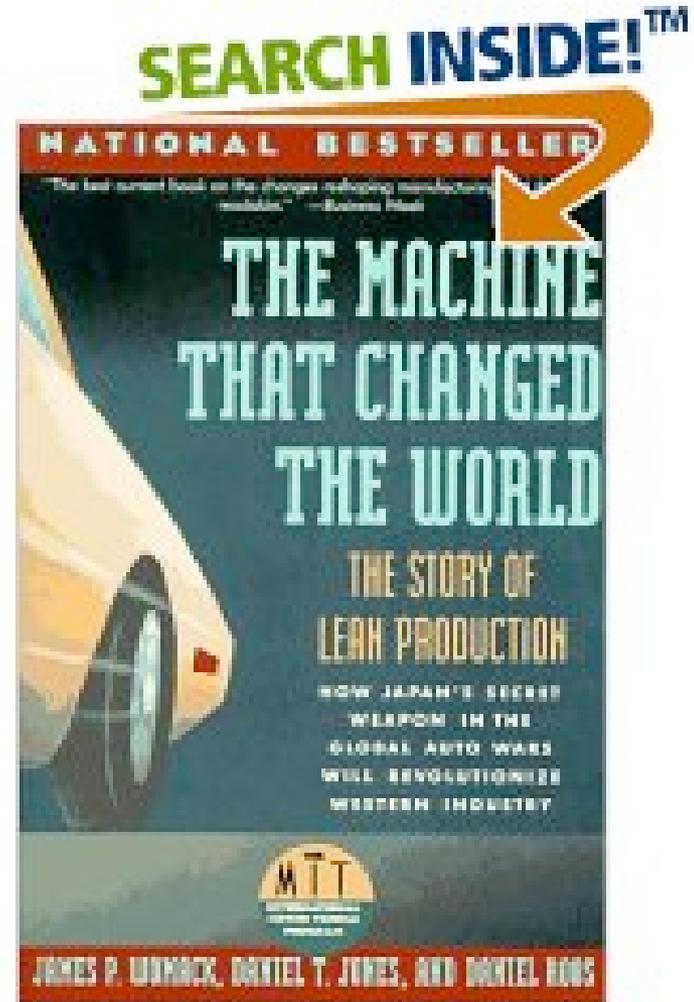
經濟史・思想史入門

坂出担当パート

(**欧米經濟史**)

第1回 12月9日

テーマ: 工場(the factory)



出所:

(左) http://www.amazon.co.jp/gp/product/images/4766780736/ref=dp_image_text_0/250-0349656-8881821?ie=UTF8&n=465392&s=books

(右) <http://www.amazon.co.jp/Machine-That-Changed-World-Production/dp/0060974176>

世界を変えたthe machineとは？

1)「ミュール型紡績工場」

1820年代 イギリス (最初の)産業革命

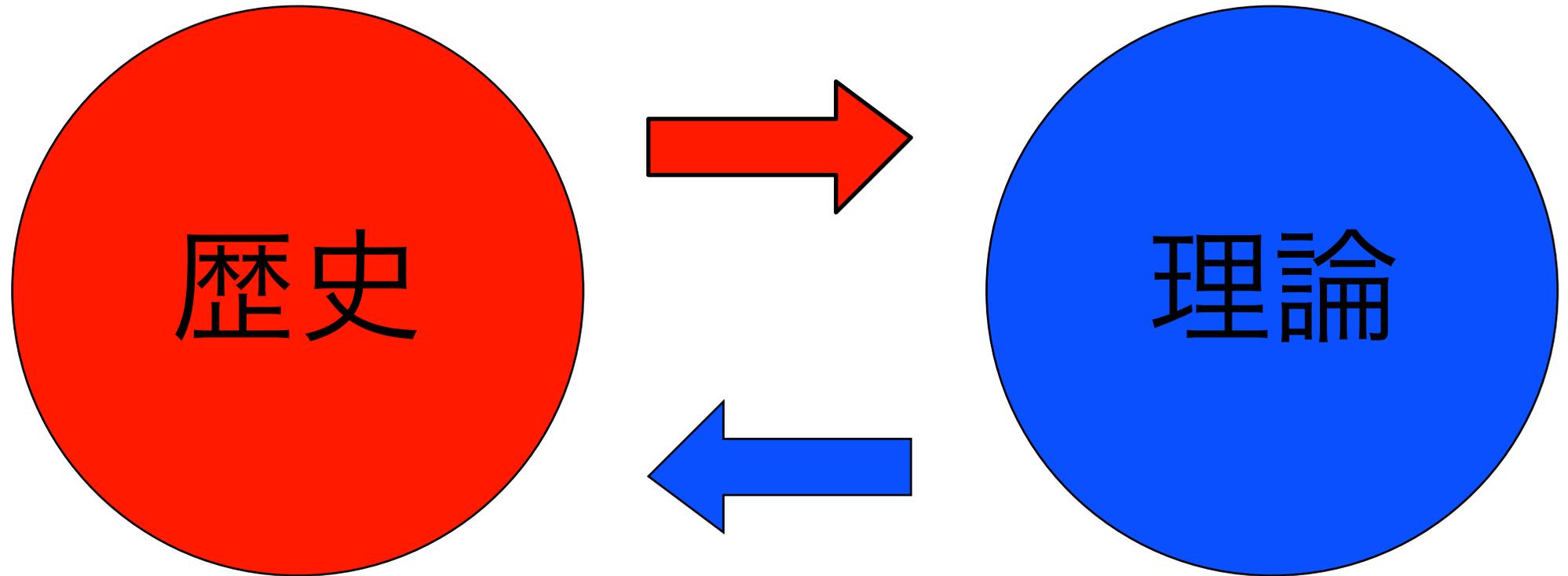
2)「フォード・システム」

1900年代 アメリカ (第二次)産業革命

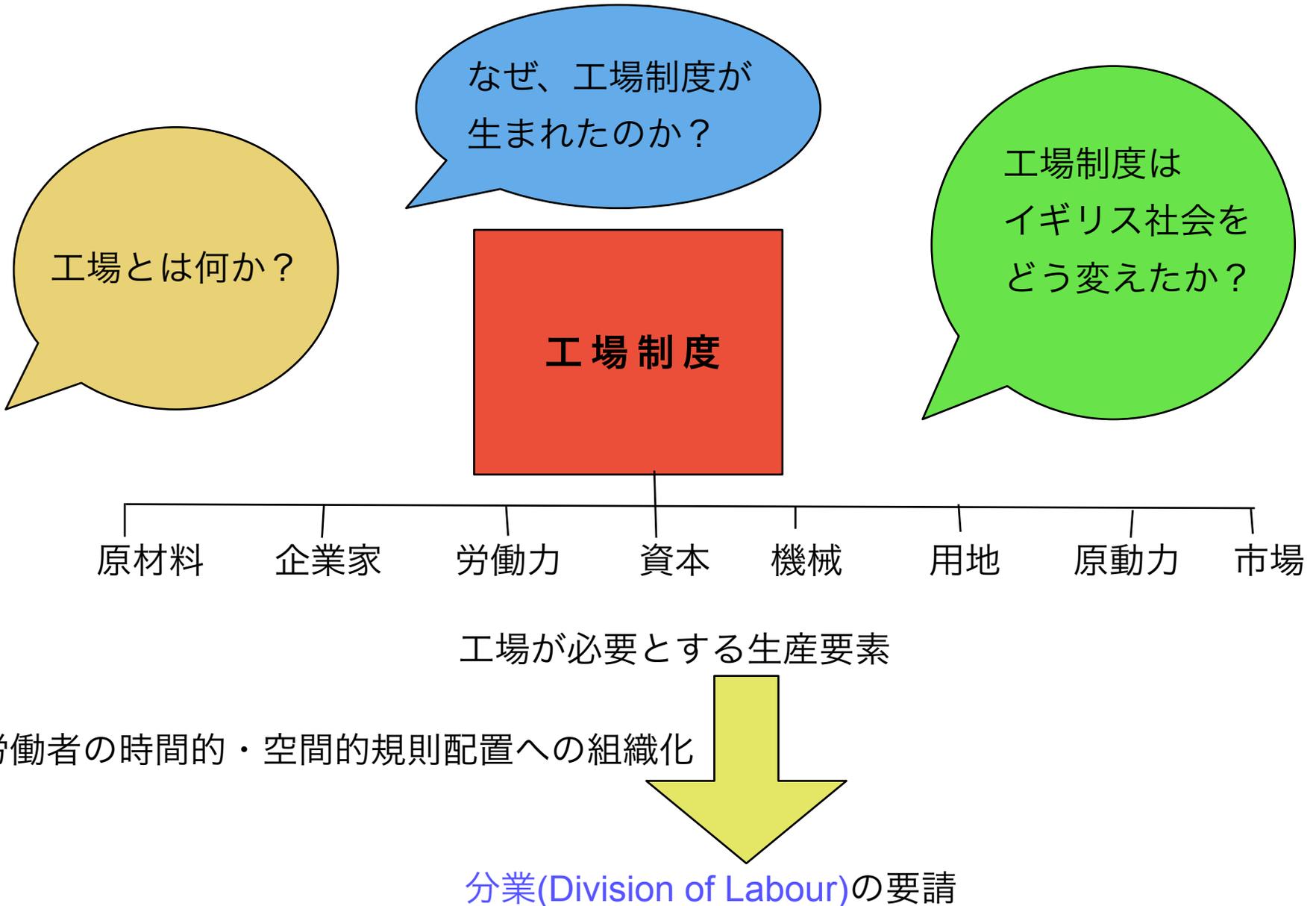
3)「トヨタ生産方式」「リーン生産方式」

～1960年代 日本

歴史と理論



「工場制度」をめぐる構図



図表A 産業革命以前の家内制手工業



図表B



図表C イギリスの綿輸出

年	ヤード
1810-19	227
1820-29	320
1830-39	553
1840-49	978
1850-59	1855
1860-69	2375
1870-79	3573
1880-89	4575
1890-99	5057

設問

- 図表Aの女性と図表Bの女性の労働状況はどう違うか？
- 図表Aと図表Bを比較すると、紡績機械の技術はどのように進歩しているか？
- 図表Cにおける1810年と1859年の綿輸出の成長を説明せよ。

家内制手工業(The domestic system)

織元（資本を所有）

最大級の織元は2000人規模のcottage労働者を雇用

織元所有の機械は労働者に賃貸される

牧畜業者から羊毛を購入

労働者への賃金支払い

羊毛をcottage労働者に配達

商人に製品を販売

毛織物を集荷

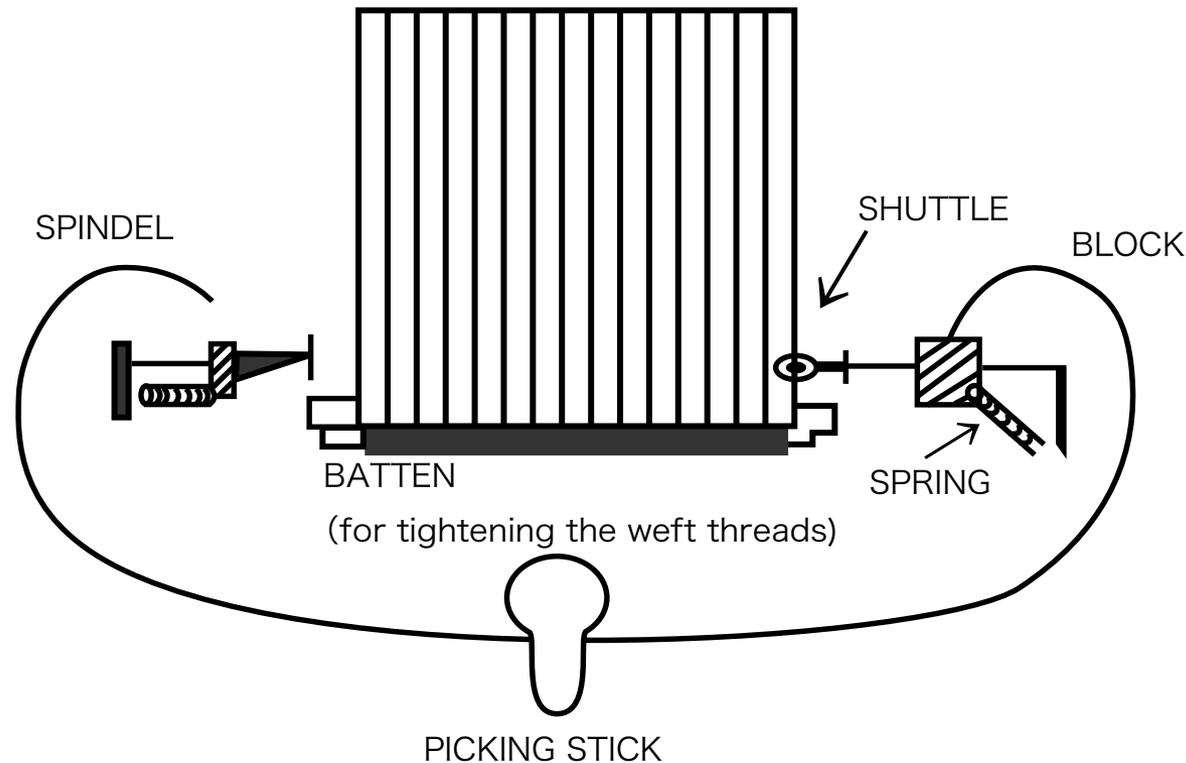
家内制手工業の特徴

- spinner（紡績工）一時間的に自由。監督者なし。農業兼営。
- 織元の労働者に対する優位な地位—労使交渉なし、しばしば労働者に対する債権者としての役割
- 低い生産力

家内制手工業と工場制度

	組織	原動力	立地	生産・販売	熟練
1750	家内制 手工業	人力 動物 水力	郊外	少量生産 地方市場	熟練労働
1850	工場 制度	a)水力 b)蒸気	郊外 都市	大量生産 全国市場 輸出市場	不熟練労働

ケイ 飛び杼(1733年)



Taylor, D "Mastering Economic and Social History", Palgrave Macmillan, 1988, p.57 より作成

手織→機械化（生産性上昇）→原料綿糸の不足
→綿糸紡績の技術革新に対する要請

綿糸紡績の技術革新

- ハーグリーブス ジェニー紡績機(1769年)
- アークライト 水車精紡機(1769年)
- クロンプトン ミュール紡績機(1779年)
- 作業機体系が完成
- 19世紀初頭には、ワットの蒸気機関と結合して、自動精紡機に発展→綿糸紡績はマンチェスター周辺に集中し、農村家内工場を駆逐

理論的フレームワーク

- スミス 『国富論』 (1755 年) 一分業論
- リカード 『経済学原理』 (1817 年) 一機械論
- マルクス 『資本論』 (1867 年) 一工場論

